

令和2年度

三島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的に学習に取り組み、自分の思いや願いを豊かに表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長・総括	渡邊 公規
北田 奈緒子		教頭・総括補佐	辻 宏明
		教務主任	角野 文則
		低学年推進員	松田 享子
		中学年推進員	大塚 真理子
		高学年推進員	佐藤 真介
		特別支援教育コーディネーター	仲西 佑香

校長

渡邊 公規



○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算のドリル学習に真面目に取り組む、ある程度定着している。 ●学習した漢字を、生活の中で適切に使えなかったり、算数の基礎的・基本的な知識・技能が定着していなかったりする児童が見られる。	・各学年で学習する漢字や計算等、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・日記や作文の中で既習漢字を使う等、身につけた知識・技能を他の学習や生活の中で活用することができる。	・昼のドリルタイムで継続的に漢字・計算練習を行い、定期的に小テストを実施する。 ・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・毎日の日記やノート、作文で既習漢字を適切に使えるよう指導する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○経験したことをもとに、感じたことを書く力についてはある程度の定着が見られる。 ●自分の思いや考えを筋道を立てて表現することに課題がある。	・学習課題の解決に向けて、筋道を立てて考えることができる。 ・話す活動、書く活動を通して、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを表現できる。	・自分の考えを書く場面を増やし、ホワイトボードや付箋を活用して整理させる。 ・「聴き方・話し方」「発表の仕方」を全校で統一し、定着を図る。 ・「3つの発問」を活用し、学習を広げたり深めたりできる授業づくりを行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校での学習や家庭学習に真面目に取り組むことができる児童が多い。 ●自らの学習状況を振り返り、これからの学習や生活に生かそうと取り組むことができる児童が少ない。また、家庭での読書量が少ない。	・学習のめあてを意識して学習に取り組み、学習したことや学習の達成度を振り返ることができる。 ・家庭でも計画的に学習や読書に取り組むことができる。	・児童が意欲的に取り組める課題を設定し見通しをもって学習できる授業づくりを行う。学習を振り返り、次につなげる。 ・「家庭学習の友」での振り返りを通じて家庭と協力し、家庭学習の習慣化を図る。 ・毎週末本を貸し出し、家庭読書を勧める。			

令和2年度 学力向上ロードマップ



